



ブランド化実現！ 「阿蘇たかな漬」が商標登録の認定

国が昨年からはじめた地域団体商標制度に、阿蘇たかな漬協同組合（10社）が「阿蘇たかな漬」を出願。品質、味、地域性などの厳しい審査の末、見事、特許庁より「商標登録」の認定を受けました。現在県内では他に「からし蓮根」、「球磨焼酎」、「黒川温泉」が登録されています。

4月に特許庁が本制度認定団体（約80団体）を招待し東京で開催したレセプションに参加した森隆博組合長は「全国トップの団体と接し大変刺激になった。商標登録商品は全国のお客さまが安心してお買い求めになるので各生産所で味や品質に違いがあってはいけない。材料も阿蘇地域のたかなを使用し、味付けも美味しく仕上がるよう組合でさらに努力し、阿蘇たかな漬の知名度アップに努めたい」と喜びを語られました。



▲6月7日行われた商標登録認定披露会で、多くの関係者を前に挨拶する組合員



▲人気のある「新漬」



命をつなぐ「献血」への協力を推進

平成19年度阿蘇市献血推進協議会が、6月8日、市内の医療機関や献血協力事業所などの代表者で構成された委員13人の出席のもと、一の宮保健センターで開催されました。同協議会は、献血について住民の理解を深め、輸血用血液を安定供給できるよう献血の推進を図ることを目的に広報活動や計画策定等を行っています。会議では、会長の佐藤市長が新任委員8人へ委嘱状交付を行った後、県内の献血状況や平成19年度の計画が報告されました。

平成18年度の阿蘇市の献血者数は883人で、うち400ml献血者数においては県目標値の744人を上回る809人で、阿蘇郡市管内ではトップの献血者数です。

7月～8月は「愛の献血助け合い運動」期間です。今後も皆さまのご協力をお願いします。

噴火を鎮める神事で観光関係者も祈願



昔から伝わる阿蘇山上神社（阿蘇山上ロープウェー横）の例祭が、6月15日行われ、氏子や山上事業所、観光関係者など20人が参列し、火山の平穏を祈願しました。火口見学は、年間約90万人の観光客が訪れる県内きっての名所。近年、外国人の観光客にも人気が、ロープウェイについては、乗客の約3割が外国の方ということです。火山活動は昨年からは落ち着いていますが、火山ガスの影響で、火口立ち入り規制になることがしばしばあります。神事では、観光客の安全も祈願し、最後に阿蘇神社の神職が火口に御幣を投げ込み儀式を終えました。

